

平成25年度小・中学校理科教育ステップUP!プラン事業

「小学校理科学校内研修支援事業」

実施報告

比布町立中央小学校

* 学級数 6 * 児童数 155

支援員勤務学校名	職名	氏名	専門分野
北海道旭川商業高等学校	教諭	山崎 努	化学

【本事業のねらい】

第5・6学年の粒子分野である「ものの溶け方」「水溶液の性質」の単元において、「粒子の結合」、「粒子の保存性」について、観察、実験のポイントなどを学び、教員の指導力の向上を目的に実施した。

【実施内容】

1月27日14:30~16:00、比布町立中央小学校理科室において、17名の教員を対象に研修を行った。傘袋を活用してものの溶け方を観察する方法、塩化アンモニウムの再結晶の観察の方法、紫キャベツの抽出液を使った水溶液の実験方法などについて研修した。



【本事業での主な参加者の声】（アンケート記述から一部抜粋）

- ・傘袋を使ったものの溶け方の実験方法については、これまで手軽な観察方法が分かりませんでした。今回学んだ方法は、簡単な方法でしかも予算をかけずに観察することができるので、授業で効果的に活用したいと考えています。
- ・塩化アンモニウムの再結晶は、食塩やミョウバンの再結晶に比べ、観察しやすいことや再結晶がきれいなことから、子どもたちの興味・関心を高めたり、観察の方法をしっかり身に付けたりすることができると感じました。
- ・紫キャベツの抽出液の実験では、簡単な教材で酸性、中性、アルカリ性を調べることができたので、効果的であると感じました。また、ラミネート加工した台紙は、何度も使えるなど、実験用具の簡単な工夫の仕方が分かりました。

【来年度以降の実施に向けて】

今回の研修は、授業に活用できる内容であり、先生方の指導力の向上が図られたことから、今後は、粒子分野以外の分野でも研修を深めたいと考える。